

事例2：小学校4年生 不安を乗り越え，自立へ向かったB男

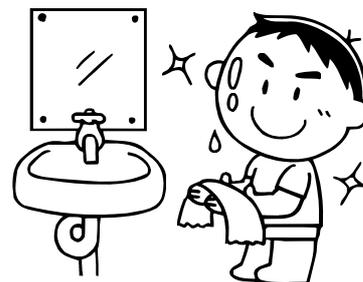


小学校1年生のころから登校しぶりがあったB男は，母親が車で送って行かないと登校できなかった。そして，小学校4年生の5月に嫌いな給食を残して担任にしかられ，「先生が怖い」，「学校が怖い」と言い始めた。また，不潔なものに過敏に反応するなど，情緒的に不安定な状態となり，継続して欠席が続くようになった。6月から教育センターで援助を開始し，9月から図書室に登校し，母親と一緒に学習できるようになり，徐々に学級での授業が受けられるようになった。

周辺の状況

両親とB男の3人家族。母親はなかなか子どもができずやっと生まれたB男を溺愛した。B男は身体が弱く，食も進まないで，母親は好きな物だけを食べさせ，偏食をするようになった。また，外遊びは危険なのでいつも部屋で遊ばせたり，清潔にするように注意をしたりしてきた。

父親はB男とのかかわりが少なく，教育は母親任せになっていた。母親は，そのような父親に対して諦めの気持ちがあり，母子関係が強い状態であった。



児童理解

母親は，B男が虚弱体質なため健康に気を配り，過保護・過干渉で指示的な養育態度であった。不潔なものや危険なものに対して神経質に反応し，外遊びを禁じたり偏食をさせたりしてきた。そのため，B男は自分の行動に自信がなく，いつも不安感をいただくようになり，母親が付いていないと安心して過ごせなくなってきた。そこに，一番苦手としている給食のことで担任にしかられ，強い恐怖から情緒的に不安定になり，「ゴミがお腹に入ったらどうなるの」，「手を洗わないと，ばい菌が口から入ったらどうなるの」などといった不安な気持ちが強くなり，頻繁に手を洗うという症状が表れたものととらえられる。

指導・援助の方針

- (セ)は，県総合教育センターの援助 (学)は，学校での指導・援助
- 1 遊びを通じた母親の受容的なかかわりで，分離不安を軽減する。(セ)
 - 2 父親の存在感を高め，家族関係を改善する。(セ)
 - 3 母親と一緒に，保健室等登校ができるようにする。(学)
 - 4 母親と一緒に，教室で授業を受けることができるようにする。(学)
 - 5 担任が友達との関係づくりを援助する。(学)

< 指導・援助の経過 >

1 母親との分離不安の軽減

砂や遊具を使った遊びをしていると、母親を見ていていいかどうか確認する仕草が見られた。母親は、B男に対して「それをしてはだめよ」、「こうしなさい」などの指示的なかわりがみられた。母親に指示を止めてもらい、B男の好きな遊びを一緒にしたり、話を聴いたりするなど、気持ちを受容したかわりができるようにした。B男は、母親にわがまを言ったり、乱暴な言葉を使ったり、甘えたりするなど、自分の気持ちを素直に母親に表現するようになった。そうすると頻繁に手を洗うという行動は少なくなった。

母親は、不登校の原因を担当が厳しいからだと考え、担任に対して不信感をもっていた。しかし、母子関係に目を向けたことで、担任に対する不信感が軽減し、学校との連携が始まった。

2 家族関係の改善

父親とキャッチボール(父親の得意なこと)をしたり、風呂に一緒に入ったりして、父親との関係を深めてもらうようにした。徐々に家族で過ごすことが増え、母親の父親に対する不満やいらいらした感情が軽減してきた。

母親が、父親のことを誉めたり、頼りにしたりするようになったことで、B男は、「お父さんは怖い」から「お父さんは優しい」という気持ちに変わってきた。それにともない、母親のB男に対するかわりが安定してきた。



3 母親との保健室等登校

担任は、教育センターに出向き、9月からのB男の対応について助言を求めた。その助言を参考に夏休み後半、担任がB男に安心して登校するために次

< ポイント >

人は、全面的に自分の気持ちを受け入れてもらえると、相手に対して信頼感をもつようになる。そして、安心してわがまを言ったり、甘えたりできるようになる。安心感を得ることによって、不安感から発した行動が少なくなる。

B男については、母親との安定した依存関係がもてるようになったことや砂遊びなどで心の開放がなされたことで行動の改善がなされた。

不登校の子どもの母親は、子どもとの対応で心身ともに疲労していることが多い。そのときに、母親を心理的にも物理的にも援助する家族の存在が必要となる。そのことで、母親の不安感が軽減され、子どもへの対応の仕方も安定したものになる。

B男については、父親が子どもの教育に目を向けるようになり、母親の援助をしたことで、母親がB男に対して安定したかわりができるようになった。

不登校の子どもは、登校時刻に人と会うことに強いストレスを感じたり、学級で学習をすることに対して拒否感をもっている。また、B男にとっては、

のように提案した。

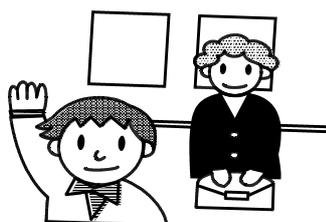
- ・ 学校へ行きたいと思ったら、いつでも登校してもいいよ。
- ・ 給食は、食べなくてもいいよ。お弁当でもいいんだよ。
- ・ お母さんと一緒に勉強してもいいよ。
- ・ 好きな場所にいてもいいよ。

B男は9月から母親と一緒に登校し、図書室で過ごすようになった。そして、徐々に母親と一緒にあれば教室で学習できるようになった。担任は母親を授業や遊びに参加させ、母親と担任、B男との関係が深まるようにした。

4 母親と一緒に教室での授業

担任は、電話で教育センターにB男の状況を報告するとともに、母親とB男を離していく時期や方法について助言を求めた。その助言を参考に母親を教室以外の場所に待機させるようにしてみた。最初、B男は、不安そうにしていたが、次第に担任と過ごすことが増え、母親が教室にいなくても学校のどこかにいれば安心して過ごせるようになった。

担任は教室の事務機の横にB男の席を設け、学習の指導・援助や言葉掛けなどに心掛けた。



5 友達との関係づくり

休み時間など、担任も一緒に遊ぶ時間を増やした。B男は遊びの中で自分の意見を主張したり、感情を表出したりするようになった。学習時間も手を挙げ、発表して友達に認められることが多くなった。

特定の友達もでき、家に連れて帰るなどして、母親というより友達と過ごす時間を楽しめるようになってきた。

給食に対して恐怖心をもっている。そのような気持ちを軽減するための条件整備が必要となる

B男は、学校には行きたいという気持ちになってきていた。しかし、一人ではまだ不安定な状態である。「お母さんと一緒に教室以外の場所だったら行ける」、「給食も食べなくていいのなら安心だ」という気持ちがあり、担任の誘い掛けに応じることができた。

母親との依存関係が軽減したとはいえ、学校では不安感が強いものである。最初は、徐々に母親から担任を始めとした学校職員に依存対象を移行させていく必要がある。甘えさせていると考えるより、甘えさせて早く学校で安定した心理状態に導くようにすることが大切である。

B男については、母親と担任の連携が深まり依存対象を担任にも広げることができた。そうすることで、教室でも母親がいなくても安定した状態で過ごすことができるようになった。

依存関係は一時的に作らせたものであるので徐々に解消していく必要がある。そのとき必要なものが友達との人間関係である。友達同士の支援・援助関係ができるような学級づくりをする必要がある。

B男については、友達ができただけで母親との心理的分離が進み、自分に対する自信も付いてきた。

B男の変容

- 1 「先生が怖い」「学校が怖い」等の恐怖感を訴えることが無くなった。
- 2 給食で嫌いなものが出てもしおらず食べるようになり、給食に対する抵抗感が軽減した。
- 3 学校では、引っ込み思案な子どもであったが、友達関係の中で自己主張をしたり、積極的に遊びをリードしたりできるようになった。
- 4 母親が登校の誘い掛けをしなくても、自分で準備をし友だちと登校するようになった。



その後の対応

- 1 長期休業日の後など登校しぶりがみられたので、担任は保護者にあせってしかることがないように、B男の自己決定を待つように助言した。
- 2 学級の児童に、B男が休んで登校しても批判することがないように指導をした。
- 3 担任は、学級経営について教育センターの助言を参考にして、構成的グループエンカウンターを用いた教育活動を取り入れながら、温かな雰囲気学の学級づくりを行った。

主なポイントの応用

ポイント 安心して登校できる条件整備（例）

場 所：子どものニーズに合った部屋

- ・パソコンに興味のある子ども（パソコン室）
- ・誰かがいつもいる部屋（校長室，職員室，保健室，相談室，特殊教育学級など）

登下校時間：子どもの希望した時間

- ・2時間目が始まってから登校し、給食前に下校するなど。
- ・再登校の場合は、最初から無理せず徐々に在校時間を増やすようする。

活 動 内 容：子どもの意志を尊重し、興味のあることや安定感を得られるような活動に取り組みさせる。

- ・運動 ・読書 ・絵画 ・虫採り ・小動物との遊び など

不安感の強いものを取り除く：給食への抵抗感（弁当を持たせる，保健室で食べさせるなど）

ポイント 友達との関係づくり

授業や特別活動の中で子ども相互の人間関係を深めるような活動を意図的・計画的に展開する。例えば、子どもが互いに認め合える場を設定したり、一人一人を生かす場を設定したグループ活動を展開したりして信頼関係づくりを行う。また、虫に詳しい子どもであれば、「虫博士」として虫の不思議を発表してもらい、学級での存在感をもたせるようにする。